

# 日本カナダ学会の現状と展望

伊藤 勝美

日本においてカナダに対する関心が高まる中で、一九七七年五月、日本カナダ研究会が、十一名の研究者をもって呱呱の声をあげた。この研究会は、急速に会員を増やし、年報（『カナダ研究年報』）の発行、日加学術会議の開催、年次研究大会の開催等により着実に実績を積み重ねながら、学際的研究団体としてその存在を確固不動のものとし、改称されて今日の日本カナダ学会となった。

本学会は現在二百数十人の会員を擁し、日本学術会議の登録団体となり、さらに「カナダ研究国際協議会」（ICCS）に加入している。

本学会は、総会の承認を得て年度ごとに活動方針を決定し、理事会がこれを具体化しかつ執行しているが、会員の研究成果を内外に問う『カナダ研究年報』の発行（年一回）、会員向けの広報紙『ニュースレター』の発行（年三回程度）は、本学会の重要な活動である。現在『カナダ関係邦語文献目録』（一九七九年刊行）および会員名簿の増補改訂の作業が進められている。なお本学会は、カナダ文学会、日加協会、関西日加協会などの団体と緊密な関係を保っている。

特に注目に値するのは、北海道、関東および関西における地区（地域）研究活

動の発展であろう。各地区は、その特性を活かして独自に研究会を企画し、機関紙を発行し、あるいは来日したカナダ人学者と随時コロキアム等を持ち、学術交流を行なっている。

ところで六年目に入った日本カナダ学会について、学際的特性をどのように具体的に活かして、「寄り合い所帯」的性格から脱却したらよいか、研究者、専門家の会員とそうでない会員の並存ということから、「専門性」と「啓蒙性」をどう調和させていくか、学部、学生・大学院生のあいだにいかにしてカナダへの学際的関心を喚起し、潜在的ないしは顕在的カナダ研究者の層を厚くしていったらよいか、いかにして地区ごとに研究条件を改善し整備したらよいか、中部（とくに名古屋）や西部などの空白地区をどのようにしてなくしていくか、本学会の財政的基盤をどのようにして確立すべきか——などのさまざまな問題が各方面から提起されてきている。

本年九月二十四—二十五日に奈良市の帝塚山短期大学で第八回年次研究大会が開催されるが、その統一論題部会のテーマは「カナダ研究とは何か——その問題点と可能性」となっている。「カナダ研究とは何か」は、本学会の存在理由に

かわる根源的な問いかけであるが、このテーマをめぐる討論から、右のようなさまざまな問題に対するなんらかの解答ないしは手掛かりが見出されるものと期待される。

終わりに、筆者個人の抱負めいたことを若干列記してみたい。

- ①邦文・欧文の文献に関する短い解説づきの速報の発行、②経済・法律・政治・文芸・社会・宗教などの分野における研究の充実と実際的研究の推進、③④の成果に基づく総合的研究書の発行、④各国のカナダ研究団体との交流の一層の促進、⑤各地区における文献センターの設置、⑥カナダ歴史年表の早期刊行。

日本カナダ学会の今日にいたるまでの発展は、会員各位の熱意、努力、協力、それにカナダ大使館をはじめとする関係各機関の理解・支援に大きく負っていることを衷心からの感謝の念をこめて強調させていただき、筆を置きたい。

（日本カナダ学会会長）

## カナダ文学会について

浅井 晃

「カナダ文学会」は、昨年八月に発足したばかりの若い団体であるが、すでに研究例会が開かれ、「カナダ文学通信」も発行されて、ようやく軌道に乗りだしたところである。会の性格は次のように定められている。

(1) カナダ文学をまったく知らない人でも、気楽に参加でき、かつ研究活動の場ともなる会としたい。

(2) 「日本カナダ学会」の下部組織ではないが、情報の交換などで協力関係を保持したい。

(3) カナダ大使館には過度に頼らないでいどの援助をお願いしたい。

組織としては、会長の他四人の幹事が運営に当たっており、事務局は大正大学外国語研究室にある。

第一回の例会では、平野敬一会長からヒュー・マクレンの新作について、渡辺昇会員からポリン・ジョンソンについて、それぞれ報告があった。今後来日するカナダの作家や学者を囲む会も計画されている。

会の目標のひとつとして、日本にあまり知られていないカナダ文学の紹介と普及のため、作品の翻訳出版を念願している。出版社の理解がなかなか得られないのが残念である。

会員の関心となる分野は広く、インディアンやエスキモーの伝説をはじめ、フランス系カナダ文学、日系カナダ人の文学なども、大勢を占める英語系文学と共に、それぞれ読まれている。スザンナ・ムーティ、マーガレット・ローレンスなどの女流作家の研究も盛んであるが、まだまだ未開拓の作家、作品が多く、今後を大いに期待したい。

現在の会員は五十余名。一層の発展のため、各方面の御協力をお願いしたい。（カナダ文学会事務局長、大正大学助教授）